

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産費 目：畜産研究費

## 事業名 種豚再造成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内 2804)

E-mail：[c11411@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11411@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 15,840千円(前年度予算額：19,800千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用 料 手 数 料	財産 収入	寄附 金	その 他	県 債	一 般 財 源
前年度	19,800	0	0	0	0	0	0	0	19,800
要求額	15,840	0	0	0	0	0	0	0	15,840
決定額	15,840	0	0	0	0	0	0	0	15,840

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・畜産研での豚熱発生により県ブランド豚を支えるポーノブラウンの種豚を全て殺処分した。
- ・現在、ポーノブラウンの種豚は一部の県内農家で保有されているが、県内農家での豚熱発生等に伴いその頭数・戸数とも減少した他、豚の寿命は3年程度と短く、県の種豚供給ができない状況では遺伝形質の劣化・消失が懸念されるため、種豚の再造成に段階的に取り組む。
- ・また、再造成には最低5年はかかるため、それまでの間の緊急的な措置として民間を活用した精液供給にも取り組む。

## (2) 事業内容

### ① 種豚の再造成

- ・ 県内農家保有の種豚候補豚等を、整備中の豚舎に導入。

### ② 精液の緊急供給

- ・ 県外の民間種豚場の種豚の遺伝領域保有状況を把握し、遺伝領域を持つ種豚からの県内農家への精液供給を実施。

### ③ 遺伝資源の保存

- ・ 最新技術等を用いた精液の凍結保存に取り組む。

## (3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 県 10/10（従前から種豚造成は県業務として行ってきた）

## (4) 類似事業の有無

- ・ 無

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅 費	1,128	
需用費	8,879	精液購入費、検査キット、凍結用消耗品等
役務費	198	通信費
委託費	2,000	種豚等の飼養管理経費
使用料及び賃借料	1,160	宿舍賃料、E T C
備品購入費	1,275	導入する種豚の購入
補助金	1,200	精液販売補助
合計	15,840	

### 決定額の考え方

# 事業評価調書

- |  |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業            |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
畜産研究所養豚・養鶏研究部の再編整備について、研究を行う上で必要な種豚ポーノブラウンの再造成を行う。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
精液供給 本数	0 (H29)	(H)	(H)	約500本 ※見込み (R2)	3000本 (R6)	16%

### ○指標を設定することができない場合の理由

--

### (前年度の取組)

- ・県内農家から買い上げた種豚を海津避難地で飼養した。
- ・雄豚から採取した精液の凍結保存を行った。
- ・県内農家等と委託契約を行い、遺伝資源の保存を行った。
- ・県外種豚場の飼養豚の遺伝領域を探查し、計画的な交配・種豚育成を行った。
- ・育成した県外種豚場の種豚から県内農家に精液の供給を開始した。

### (前年度の成果)

- ・海津避難地・農家での種豚飼養により種豚再造成・精液供給に必要な遺伝資源の保存を図ることができた。
- ・県内農家での飼養豚の交配により、後継豚の育成を進めた。
- ・県外種豚場で育成した種豚から県内農家に精液の供給を行うことができた。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い</p>	
(評価)  ○	県ブランド豚を支える県保有の種豚ポーノブラウンの再造成は、畜産振興の観点から必要である。
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)  ○	早期着手することで、種豚の保存が図れるとともに、移転後、速やかに種豚の育種改良を開始することができる。
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある</p>	
(評価)  ○	必要最小限の予算で取り組むこととしている。

### (今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 岐阜ブランドの復活に向けて、早期の種豚再造成や精液供給の再開を進める必要がある。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 再編整備が完了し、精液供給が安定化するまでは継続して取り組む必要がある。</p>
---